

報 道 発 表

平成 26 年 2 月 18 日
財 務 省**・不正薬物の押収量が 9 年ぶりに 1 トンを上回る深刻な状況**
・航空機旅客による覚醒剤の押収量が過去最高を記録

- 平成 25 年の全国の税関における関税法違反事件の取締り状況 -

財務省は、平成 25 年の 1 年間に全国の税関が空港や港湾等において、不正薬物の密輸入その他の関税法違反事件を取り締まった実績をまとめましたのでお知らせします。

1. 不正薬物

不正薬物^{*1}全体の摘発件数は 382 件（前年比 24%増）、押収量^{*2}は約 1,007 kg^{*3}（前年比 61%増）と大幅に増加し、“**深刻な状況**”

押収量が 1t を上回るのは平成 16 年以来 9 年ぶり

※1 覚醒剤、大麻、あへん、麻薬（コカイン、ヘロイン、MDMA 等）、向精神薬をいう。

※2 錠剤型薬物を除いたもの。

※3 薬物乱用者の通常使用量で約 3,331 万回分と使用量では過去 2 番目

〔覚醒剤事犯〕

➤ 摘発件数は 154 件（前年比 9%増）、押収量は約 859 kg（前年比 78%増）と”**大幅に増加**”
押収量が 800 kg を上回るのは、平成 12 年以来 13 年ぶり

◇ 密輸入手口の“**大口化傾向**”が顕著

・海上貨物から約 200 kg の大口事犯を 2 件摘発

・押収量 5 kg 超の密輸入事犯が 26 件（前年比 53%増）と大幅に増加

◇ 航空機旅客による押収量が“**過去最高**”を記録

・押収量が約 304 kg と過去最高であった平成 22 年の約 235 kg を大幅に更新

・押収量の半数以上が土産品等に細工をして隠匿

・50 代以上の密輸入者が全体の 4 割以上

◇ 密輸仕出地が短期間で“**目まぐるしく変化**”

・近年増加傾向にあったアフリカ、欧州が減少

・インドを中心としたアジアや中国が急増

〔大麻事犯〕

➤ 摘発件数は 66 件（前年比 20%減）、押収量は約 13 kg（前年比 90%減）と“**大幅に減少**”

〔麻薬事犯〕

➤ 摘発件数は 128 件（前年比 2.8 倍）、押収量は約 135 kg（前年比 12.4 倍）と“**大幅に増加**”

2. その他

➤ 知的財産侵害事犯として、瘦身用マッサージ器や携帯電話用ケースの密輸入事犯を告発

➤ 北朝鮮関連事犯として、仕向地を韓国や中国と偽って、北朝鮮向けに中古タイヤや自動車を輸出したものを告発

[問い合わせ先]

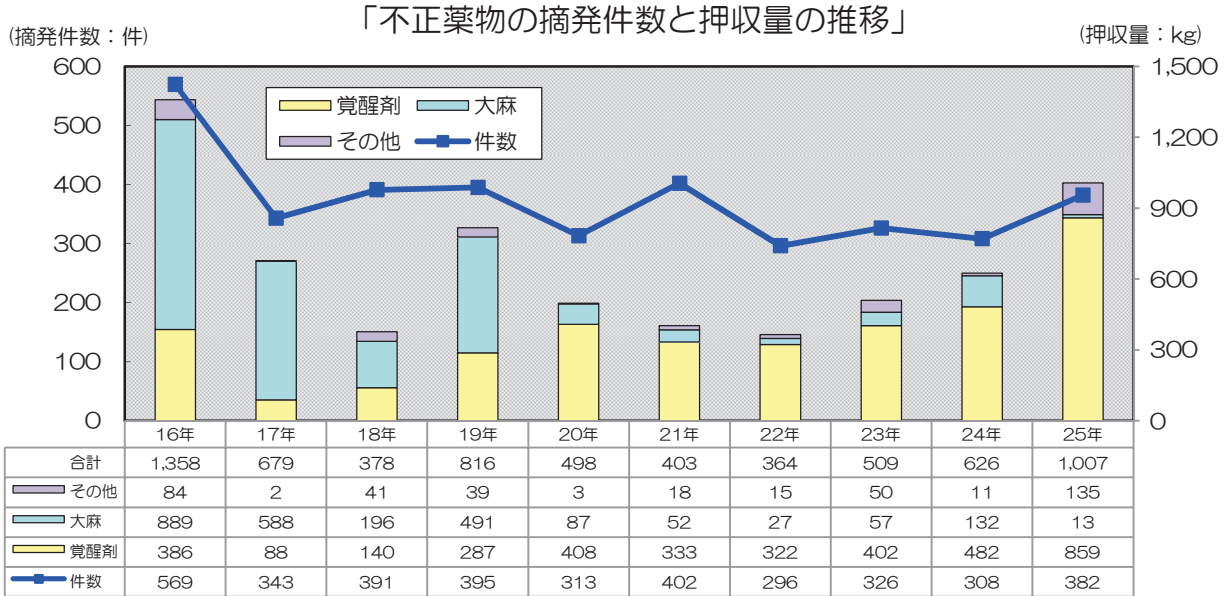
財務省関税局 調査課 課長補佐 野中

直通 03-3581-4158、代表 03-3581-4111（内 5389）

平成 25 年の全国の税関における関税法違反事件の取締り状況

1. 不正薬物

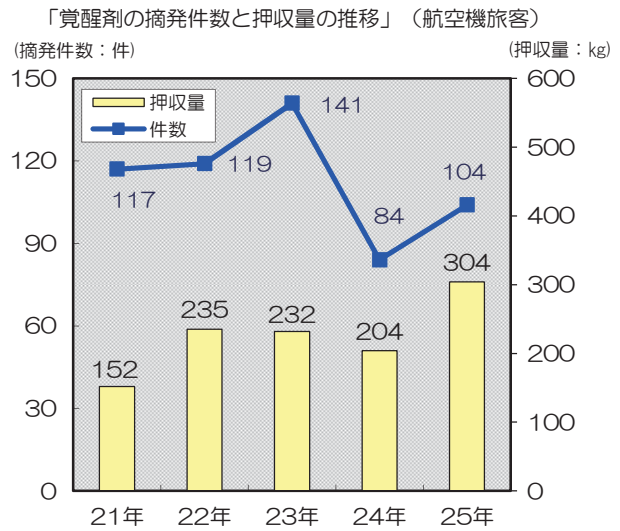
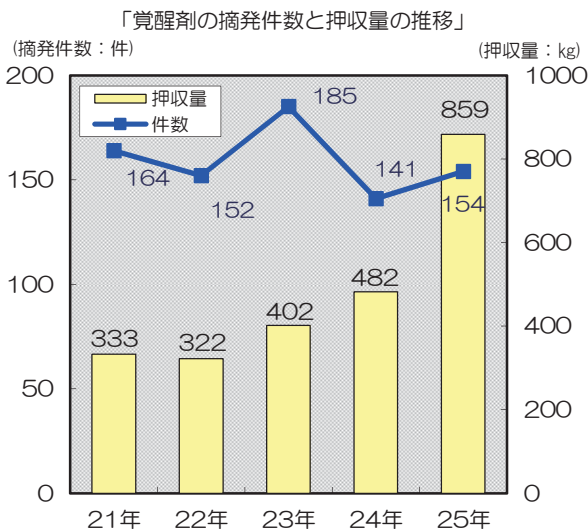
不正薬物全体の摘発件数は 382 件(前年比 24%増)、押収量は約 1,007kg(前年比 61%増)。
 押収量が 1t を超えるのは平成 16 年以来 9 年ぶりのこと。構成比は覚醒剤が全体の約 85%を占めた。



※その他とは、麻薬(ヘロイン、コカイン等)、向精神薬及びあへんをいう。

(1) 覚醒剤

- 摘発件数は 154 件(前年比 9%増)と平成 23 年、21 年に次ぐ過去 3 番目となり引き続き高水準となった。また、押収量は約 859kg(前年比 78%増)と前年の実績を大幅に上回る過去 3 番目の記録となり、平成 12 年以来 13 年ぶりに 800 kg を上回った。
- 密輸入形態別にみると、商業貨物による押収量は前年の 2 倍超と大幅に増加した。【トピックス①参照】また、航空機旅客による摘発件数は 104 件(前年比 24%増)、押収量は約 304 kg(前年比 49%増)といずれも前年の実績を大きく上回った。特に押収量については、初めて 300 kg を超え、過去最高を記録した。【トピックス②参照】
- 密輸仕出地別にみると、摘発件数はアフリカ及び欧州からの密輸入の摘発が大幅に減少した一方で、インドを中心としたアジアからの密輸入の摘発は前年の 2 倍超と大幅に増加。メキシコ及び中国からの密輸入の摘発は引き続き高水準となった。【トピックス③参照】



トピックス① 多発する覚醒剤の大口密輸入事犯

海上貨物から合計 400 kg を超える覚醒剤を押収!

[事例 1]

製粉機の内部に隠匿

平成 25 年 3 月、横浜税関は、メキシコから横浜港へ到着した海上コンテナ貨物の検査において、製粉機のローラー内部に隠匿していた

覚醒剤 約 240 kg
を発見、摘発した。



[事例 2]

模造鉄鉱石の内部に隠匿

平成 25 年 5 月、神戸税関は、メキシコから神戸港へ到着した海上コンテナ貨物の検査において、模造鉄鉱石に隠匿していた

覚醒剤 約 194 kg
を発見、摘発した。

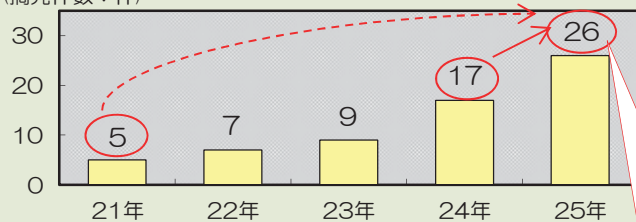


押収量 5kg 超の密輸入事犯が増加。4 年で約 5 倍に。

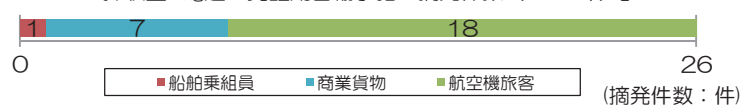
近年、押収量 5kg 超の覚醒剤密輸入事犯の摘発は増加傾向にあったが、平成 25 年は、前年の約 1.5 倍、平成 21 年の約 5 倍と大口化傾向が更に顕著。

形態別にみると、航空機旅客による密輸入事犯が 18 件と最も多かった。

「押収量 5kg 超の覚醒剤密輸入事犯の摘発件数の推移」
(摘発件数：件)



「押収量 5kg 超の覚醒剤密輸入事犯の摘発件数 (H25年)」



[事例 3]

船舶乗組員等による覚醒剤密輸入事犯

平成 25 年 7 月、名古屋税関は、名古屋港に停泊中の外国貿易船から、

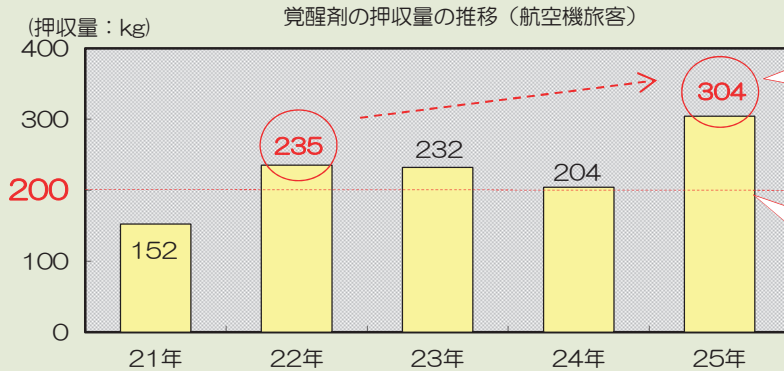
覚醒剤 約 10 kg
を密輸入した韓国人男性等を発見、摘発した。



トピックス② 航空機旅客による覚醒剤の密輸入

航空機旅客による覚醒剤の押収量が過去最高を記録！

航空機旅客による覚醒剤の押収量が約 304 kg と過去最高を記録。押収量が 300 kg を上回るのは初めて。



これまでの過去最高は、
平成 22 年の約 235 kg。
平成 25 年はこの数量を大きく更新

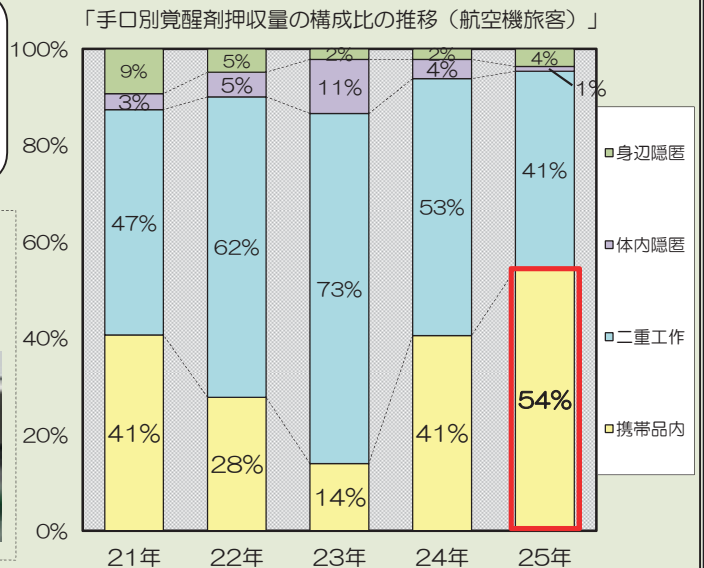
平成 22 年以降、航空機旅客による密輸入押収量は毎年 200 kg 超

隠匿手口別にみると、携帯品への隠匿が増加！

隠匿手口別にみると、土産品等の携帯品に細工を施して隠匿する手口が全体の 54% と半数以上。次いでスーツケース等の二重工作が 41%。体内隠匿は減少傾向。

【事例 4】

鳥形木製置物に細工をして隠匿していた
覚醒剤約 4kg の密輸入事犯を摘発 (H25. 3 成田空港)

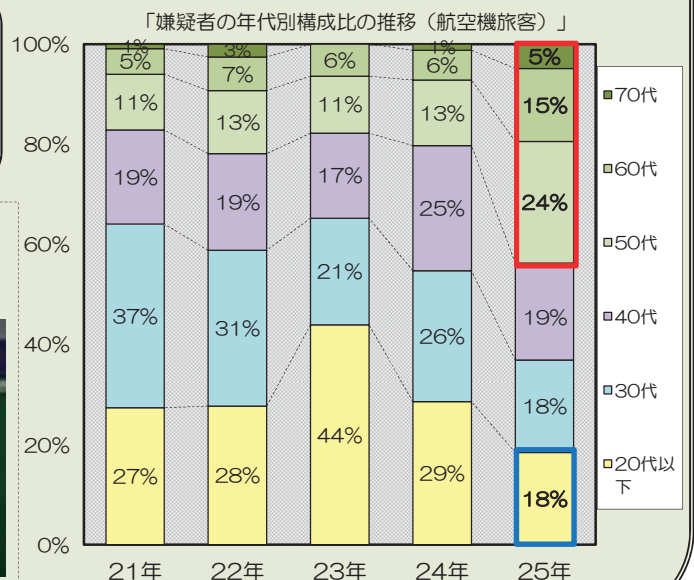


50 代以上の密輸入者が全体の 4 割以上。

密輸入者は国籍を問わず、4 割以上が 50 代以上と前年から大幅に増加。
20 代以下の若年層は大幅に減少。

【事例 5】

ドイツ人男性 (62 歳 (摘発時)) による覚醒剤約 4 kg の
密輸入事犯を摘発 (H25. 11 成田空港)

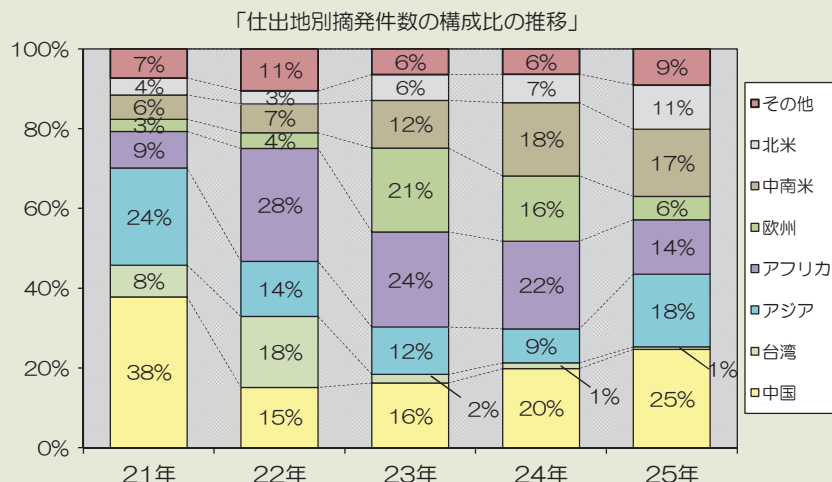


トピックス③ 覚醒剤の密輸仕出地の傾向

アジアからの密輸入が急増。中国、中南米は依然高水準！

覚醒剤の密輸仕出地は、欧州、アフリカの割合が大幅に減少した一方で、インドを中心としたアジアからの密輸入が急増（7割弱がインド）。

中国、中南米（メキシコ）については、引き続き高水準。



【事例 6】

糸巻に隠匿

平成 25 年 7 月、東京税関は、インドから成田空港へ到着した台湾人男性の携帯品検査において、スーツケース内に収納していた糸巻を細工し隠匿していた

覚醒剤 約 9 kg
を発見、摘発した。



目まぐるしく変化する仕出地の傾向。

主要な仕出地を四半期ごとにみると、

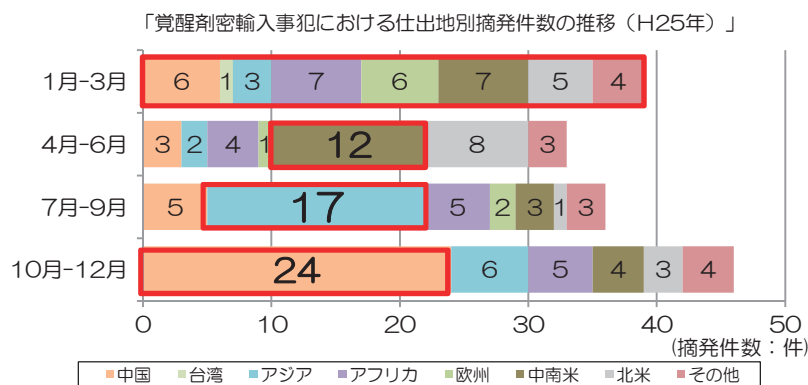
1- 3 月は、「全世界」、

4- 6 月は、「中南米」、

7- 9 月は、「アジア」、

10-12 月は、「中国」

と目まぐるしく変化。



【事例 7】

粉ミルク紙箱内に隠匿

平成 25 年 11 月、門司税関は、中国から福岡空港へ到着したドイツ人男性の携帯品検査において、粉ミルクの紙箱内に隠匿していた

覚醒剤 約 5 kg
を発見、摘発した。

